

四季報
No. 63

鴨 東 通 信

おうとうつうしん

2006.10

ていーたいむ

集める・組みたてる・読む

——『隔莫記』総索引とデータベース—— 谷 晃

特別寄稿

近年の朝鮮通信使研究について 李 元植

史料探訪26

秀吉の金の茶室

——小早川隆景・吉川元長上坂記 村井祐樹

■新企画・人文科学の最前線■

奈良女子大学21世紀COEプログラム

桑原祐子

■私のノートから■

大英博物館所蔵『猿の草紙』閲覧記 竹本千鶴

恋を探る試み——『茶道と恋の関係史』 岩井茂樹



◎新刊案内◎

織豊期の茶会と政治／公家と武家Ⅲ

中世日本の政治と文化／京都文化の伝播と地域社会

権者の化現／東寺百合文書 第4巻

岩倉使節団における宗教問題

増補・改訂 西村茂樹全集 第4巻

文学に見る痘瘡／眼科医家人名辞書

太宰文学の女性像／私の中の20世紀の外国映画

◎復刊案内◎

朝鮮通信使の研究／増補 蓮月尼全集

思文閣出版

集める・組み立てる・読む

— 『隔蓐記』 総索引とデータベース —

谷 晃(野村美術館学芸部長)

◆『隔莫記』の総索引が刊行となりましたが、
これによって研究の幅も広がっていくと思うの
ですが……。

『隅莫記』の読書会は20年近くずっと続けていますが、メンバーはいろいろな分野の方々と、歴史・陶器・考古・絵画・和歌などそれぞれの専門分野から意見が出るわけです。

それでも今までは前後に同じようなことが出てきても、なかなかわからなかった。しかし索引ができて、例えば「道作法眼」であれば、索引で「山脇」という姓がわかった。「山脇道作」は曲直瀬道三まなせどうさんの弟子で、3代目ぐらいあとに臓物腑分け図の山脇東洋がいるということもわかる。索引ができたことによって、このようにいろいろと関連づけてわかるようになりました。

「医者はけっこうたくさん出てきます。ほかに
半井や武田も出てきます。これまでの医学史に
出てこなかった人も随分たくさん出てきて、医
学史においても新たな展開が期待できる文献だ
ろうと思います。」

索引には『隔冀記』からわかる限りの情報を付加して入れました。医者であれば小児科だとか歯医者だとか、かなりのものがわかります。他の分野でも同様にできる限りの情報を加えるように努力しました。

植物についても結構参考になるのではないかと思います。『隔蓑記』にはいろいろな花が出てきます。当時は園芸が盛んになった時期ですから、いろいろなところから取り寄せては植えたりしています。

これだけ内容量の豊富な文献史料というのは
まあないでしょうね。大きいもので言えば『^{だい}大
乗院^{じしやぞうじき}院寺雑事記』とかあるけれども、いろん
な分野にまたがって利用できるというか、貴重

な情報を提供しているというものは、『隔冀記』
の他にはちょっとないんじゃないかと思います。

史料のデータベース化も今年の夏で一応終了しました。『隔蓑記』が最初の取り組みで、その後日記類や芸能関係の茶・花・能などの文献をとにかく全文入力して、15年くらい続きました。かなりのボリュームのものができあがっています。

そのなかでも面白いのは近衛家熙の『槐記』
 ですね。随分いろんなことが分かります。家熙
 は勉強家というのかいろいろ物知りで、徹底的
 に調べないと我慢ができないタイプの人間です
 ね。筆者の山科道安が何かいろんなことを（家
 熙に）尋ねますが、その場で即答できないこと
 については必ず後で調べて、これは中国の文献
 にこのように載っていたなど答えています。た
 だボリュームというのか、量としてはやはり
 『隅笈記』とは比べものにならない……。

◆さまざまな分野でデータベースの蓄積と公開が盛んですが、研究方法も変化していきますでしょうか？

やはり変わるでしょうねえ。極端なことをい
えばあまり図書館に行かなくなるのではないで
しょうか。学生にしろ研究者にしろパソコンの
前でまかせてしまうような現象は確実に進んで
いるし、これから顕著になってくるのではない
でしょうか。インターネットで関連語句を拾
い出して、その史料を組み立てれば簡単な論文
であれば書けますので、そのようなやり方はこ
れからどんどん増えてくると思います。

問題なのは、その前提として信頼できるデータベースそのものが整備されていないといけ
ないわけです。整備されてくれば知らなかったところからでも、いろんなものがどんだんわかっ

てくる可能性がありますね。

歴史でいえば、未翻刻のものをとにかく翻刻をするということがひとつの目標であり、東京大学史料編纂所をはじめとしたいろいろなところや人々が行ってきました。その次は翻刻史料がどれだけデータベース化されていくかということが問題になるわけです。

ただし、データベース化するにあたっては、いろいろな問題があります。ひとつは著作権です。出版権もそれに絡みますが、そういう法律関係の問題が一方にあり、もうひとつは入力をする際の誤入力、ミスそのものが完全にはならないだろうということです。またJIS第2水準以上の漢字の取り扱いも重要な問題です。
◆データベースの研究成果と先生のお仕事を具体的にお話し下さい。

僕が書いた『茶会記の研究』というのがまさしくそれなんです。だいたい15,000件ぐらいの茶会記をとにかく入力したんです。そこで人だとか、使われた道具なんかをカウントして、一種の統計的な処理をしました。例えば茶会の掛け物としては、中国の画家であれば牧溪がNo.1であったとか、日本の古筆であれば定家がNo.1であったとか2番目が誰であったとか、数量・数字として出てくるわけです。こうした作業の中から数値が何を意味しているのかを考える手がかりがえられるわけです。

茶会記の入力を始めたきっかけは、「人名事典」をつくりたいと思ったのです。特に16～17世紀ぐらいの“茶会記にみる人名事典”といったイメージを持っていたのです。茶会記にはいっぱい人が出てくるので、人名事典をつくるための有力なソースというか基礎になると思って、とりあえず入力してみようということから始めたわけです。そうすると意外と人名だけでなく結構いろいろな情報がつまっているものですから、いつときは面白くて入力ばかりしていた時期がありました。『茶会記の風景』という本はその成果から生まれた書物で、それからさきにあげた『茶会記の研究』という本につながるわけです。

茶会記は種類として、百数十種類ほど、茶会数としては15,000件ぐらいはデータベース化し



たと思います。活字化されたものはおそらく全部収め、活字化されていないものもかなり入力しました。茶会記の現存最古の記録である天文2年（1533）から昭和の初めの1940年代まで、主要なものはすべて自分で入力しました。

毎日することが大事ですね。とにかく仕事にかかる前に30分やる、そうすると例えばひと月で15時間、1年だと180時間になるわけでしょう、1年365日すべてはできませんが150時間ぐらいは確保できます。ところが150時間をそのために充てようと思ってもなかなかできるものではありません。3年ぐらいとにかく毎日30分から1時間ぐらい黙々と打ち続けていました。今でも研究論文の引用文献や消息の入力などは日々行っています。やりはじめたことは、何とかけりをつけるまではやろうとする性癖みたいなものが私にはあるようです。

それにしても『隔葉記 総索引』は大勢の人の協力があって初めてできた仕事です。まず何十人という入力する人がいて、だいたい2年半ぐらいかかりました。そのあとも膨大な点検作業が必要でした。この一冊の裏には本当に大勢の人の努力の集積があるわけです。僕はいわばとりまとめ役であって、それを何とか形として実現するために、旗振り役として、いくばくかの力を注いだけけです。

（2006.9.21 野村美術館にて）

たに・あきら…1944年愛知県生。1970年京都大学史学科卒業。香雪美術館を経て、1990年より野村美術館学芸部長。芸術学博士。

著書に『茶会記の風景』（河原書店、1995年）『金森宗和茶書』（思文閣出版、1997年）『茶会記の研究』（淡交社、2001年）『よくわかる茶の湯の文化』（淡交社、2005年）など。共編著に『庸軒の茶一茶書・茶会記一』（河原書店、1997年）『茶の湯美術館』（角川書店、1997～98年）『淡交別冊—やきもの入門』（淡交社、2000年）『高麗茶碗 論考と資料』（河原書店、2003年）など。

関連記事をP.4に掲載

かくめいき 隔莫記 総索引 (全1巻)

『隔莫記』研究会 編

最新刊

日記『隔莫記』（全6巻）の膨大な情報をコンピューターで整理し、人名・事項・社寺名・地名の四種類の索引にまとめる。

組見本(人名索引)

木村越前守[三条西実教の内]

① 034, 035, 144, 262, 284, 443, 476

木村快庵[法橋・医師・盛方院弟・大学父]

① 122, 672, ② 008, 114, 122, 180, 266,

③ 661, ③ 229, 332, 411,

④ 58, 722

別称・異称・官位官職・
寺院名・姻戚・師弟関
係・居住地などや鳳林・
校注者の誤りを併記

屋(竜田屋)・木村与

④ 742, ⑤ 015, 104, 199,

木・黙・空・門・開・野

212, 227, 266, 321, 402, 411, 418, 422,
528, 544, 550, 607, 612, 620, 721

④ 125, 184, 191

325, 491, 496,

635, 636, 641,

691, 706, 708, 719, 748, ⑤ 015, 019,

027, 034, 057, 085, 090, 173, 174, 227,

232, 235, 248, 251, 252, 273, 289, 291,

項目の配列はJISコード順と
し、各ページの柱に1文字目
の文字を掲載

組見本(事項索引)

松茸料理[食物・料理]

① 503, 504,

② 077, ③ 223, 226, 367, 374, ④ 554,

⑤ 302, 304, 308, 456, ⑥ 485

松竹炭[燃料]

② 405, 532

検索の便とするため
の分類項目を示す

① 408, ② 303, ⑥ 599

④ 443, 482

059, 095, 189, 277, 384, 426, 492, 512

514, 515, 564, 609, 640,

216, 222, 262, 302, 313, 411

569, 601, 604, 631

消災呪本[典籍]

消字八景絵[八景絵]

■収録項目■

人 名 : 8,000

事 項 : 8,800

社 寺 名 : 550

地 名 : 500

▶A5判・760頁／定価14,700円

ISBN4-7842-1312-0

同時復刊！

赤松俊秀校訂

かくめいき 隔莫記

全7巻

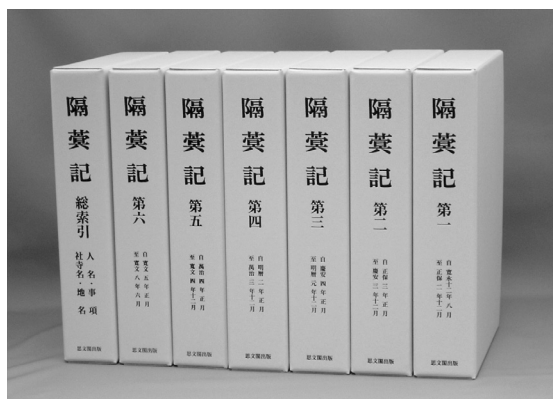
(本篇6巻
総索引1巻)

近世文化の最重要史料、金閣鹿苑寺住持鳳林承章自筆の日記。総索引完成を機に、総索引を含めた全7巻セットとして復刊。

——記述内容——

後水尾院の宮廷文化／千宗旦・小堀遠州・片桐石州・桑山一玄・金森宗和などの茶人／野々村仁清・栗田宮作兵衛ら初期京焼の陶工／二代池坊専好のいけばな／狩野守信・山本友我などの絵師の活動／林羅山らの儒者／本阿弥光甫・曾谷宗喝ら市民との親交の様子／俳諧等の文芸／修学院・桂離宮／茶師・画商・古書画・古陶など

▶A5判・総5,130頁／定価73,500円



ISBN4-7842-1311-2

大英博物館所蔵『猿の草紙』 閲覧記

竹本千鶴

歴史の研究者にとって、実物の史料を拝見させていただくことは、貴重な勉強の機会でもあり、また大変な喜びでもある。私が専門とする日本中世史の場合、基本となる史料の多くが翻刻されており、出版物などで読むことができるのだが、実物の史料を閲覧することによって得られる情報ははかりきれないものがある。

このようなわけで、私は今回初めての著書をまとめるにあたり、『猿の草紙』という戦国時代の絵巻物を実際に拝見し、こまかな点をこの目で確認しておきたいと思った。

『猿の草紙』は、滋賀県坂本の日吉大社を舞台とし、猿を擬人化させて嫁入り・連歌と茶湯・宴会などの場面が描かれており、戦国時代の文化や風俗を鮮明に表現している貴重な絵巻物として知られている。この絵巻物、一八〇〇年頃までは日本にあったことが確認できるが、一九〇二年にイギリス・ロンドンの大英博物館の所蔵となり、現在に至っている。つまり、『猿の草紙』は、日本から海外に流出した史料のひとつなのである。

そこで、私は一念発起し、大英博物館日本部部長のクラーク氏へメールで閲覧願いをし、許可を得ること

ができたので渡英した。二〇〇五年四月のことであった。

当日は、スタディ・ルームという研究者のための史料閲覧専用の部屋で厳粛に閲覧させていただいた。指導教授の教えを思い出しつつ、指輪や時計をはずした後、閲覧者台帳に日付・名前・所属を記入したのだが、ここでも私は大英博物館の伝統と文化に感嘆した。というのも、この台帳、辞書ほどの厚みがあり、革張りの装幀で重厚感だようものであったからである。

『猿の草紙』を拝見して、まず感じたことは、写真で見るとより繊細に描かれていて、猿たちがいきいきしている、ということであった。ことに連歌と茶湯の場面は、著書で引用するところでもあったので、念入りに観察したが、当時の茶会で使用される道具はもとより、お点前や喫茶の所作、部屋のしつらいに至るまで、かなり緻密に表現されていたのである。その臨場感たるや、思わず絵巻の世界にひきこまれそうな錯覚に陥ったほどであった。さらに、クラーク氏が美術史的な視点からこまかに解説してくださったことも、より深く『猿の草紙』を理解する一助となった。

出発前、ロンドンへは学生時代に観光で訪れた経験

しかなかったため、無事、閲覧を遂げることができたのかどうか若干の不安もあったが、結果として、多くの知見を得ることができ、そのうえ、南方熊楠やマルクスなど多くの著名人も利用したという歴史ある図書室、リーディング・ルームで調べ物までさせていただき、充実した数日を過ごすことができた。これもクラーク氏のお心遣いの賜物である。

この時の体験や『猿の草紙』について講義で話しており、多くの学生から「日本の絵巻物が海外へ流出してしまつて悲しい」という率直な感想がよせられた。それに対して、私は、研究者に広く門戸をひらいている大英博物館の所蔵品だからこそ、熟覧が叶えられたこと、そしてこのような機会を得た者は、それを自分の研究に活かしていかなければならない、と改めて感じていることを説明したのである。

なお最後に、クラーク氏が流暢な日本語をお話になつていたことを付け加えておく。



たけもと・ちづ

1970年神奈川県生まれ。國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期修了。博士（歴史学）学位取得。現在、國學院大學文学部兼任講師。

●私のノートから●

恋を探る試み——『茶道と恋の関係史』

岩井茂樹

私がまだサラリーマンだった頃のことである。十年

前くらいの話だ。電車に乗って実家に帰省している時だった。私は以前から谷崎潤一郎の文章が好きで、その時は彼のエッセイを読んでいた。読み進めるうちに、なぜか「恋は茶道の精神に反する」という一節が目にとまった。たしかに、私たちのイメージするお茶の世界には、恋の世界とは無縁な、どこかストイックなところがある。けれども、日本文化全体から考えると、恋の要素がないものなんて本当にあるのだろうか、と疑問に思った。例えば、和歌の世界には多くの恋歌がある。能や歌舞伎・浄瑠璃などの芸能にも恋の物語が多い。『源氏物語』から西鶴のもの、そして現代の小説に至るまで、恋があふれている。むしろ、恋の世界を含んでいる方が自然なのではないかと思っただ。お茶の世界だけが特殊なのか。そんなはずはない、と直観した。

今回私が著した『茶道と恋の関係史』は、タイトル通り茶の湯と恋の関係を歴史的にたどったものである。茶書に書かれた恋に関する記述を抽出し、茶会記から恋の掛物が使われた茶会を分析するとともに、茶道具の銘に恋歌由来のものがどれくらいあるのかを調べたものだ。詳しいことは拙著をお読みいただきたい

が、ここでその一部を紹介しておこう。

まず茶書には恋歌の掛物を用いてはならないという旨の記述が、寛文年間あたりから見出される。それが本格的になるのは元禄以降である。茶道史で言えば、千宗旦の弟子たちが活躍し、利休百回忌（元禄三年）と共に「利休回帰」の風潮が強まった時期である。現在までそれが受け継がれている流派もある。しかしながら、銘については何ら記述がない。実際、和歌由来の銘（歌銘）を持つ茶道具では、『古今和歌集』や『新古今和歌集』の恋歌比率と同程度に恋歌が用いられていた。この数字は、古歌がランダムに採られたことを意味する。すなわち恋歌を意図的に排他・制限するような意識は全くなかったのである。掛物ではさすが、銘なら恋歌由来のものでもよいという思想は、「恋は隠すもの」という和歌で培われた日本の伝統的な美意識に基づいているものとも考えられる。通常の茶会では、今述べたような具合である。

ところが、恋歌を禁止していたはずの流派でも、特別に恋歌を掛けることがある。それはどんな場合だろう。本書ではその理由を、茶会の行なわれた日時、歌の内容、客組、茶道具などから推理した。一応私なりの答えは述べたつもりではあるが、できれば読者の方

も一緒に考えて推理していただきたい。その余地は十分に残したつもりである。

恋という漠然としたものを捉える試みは、まだ始まったばかりである。これに続き、今私は恋歌の通史を書いている。恋歌がどのように考えられ、享受されてきたのか。それを歴史的に捉えようというのである。恋歌は、和歌の根本と考えられる時であれば、反対に淫奔の媒と考えられた時代もあった。その歴史の裏をできるだけ丁寧に読み解いてみたいと考えている。そして最終的には、日本人にとって恋とは何なのか、ということについて私なりの答えを出せればいいと思っている。『茶道と恋の関係史』はその第一歩目ではあるが、それは単なるプレリユードではない。重要、かつ不可欠な一歩目である。恋に関心のある方は勿論のこと、茶の湯を含めた日本文化に興味のある方には是非読んでいただきたい一書である。



いわい・しげき

1969年奈良県生まれ。総合研究大学院大学博士課程修了。博士（学術）。国際日本文化研究センター研究部技術補佐員。

織豊期の茶会と政治

竹本千鶴著

【最新刊】

織田信長による名物茶器をしつらえた茶会の場を、従来のようにわび茶の史の変遷の一齣として見ていくのではなく、室町殿中の座敷飾りが段階的に発展した「大名茶湯」として捉えて、中世史の中に位置付け、織田・豊臣政権における支配構造の側面を茶会の場を通して明らかにする。

.....内容目次.....

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 第1部 信長・秀吉所蔵の名物の歴史的背景 | 第2部 織豊期における座敷飾りの展開 |
| 第1章 秀吉書状に見える
「御茶湯御政道」の再検討 | 第1章 信長茶会における名物室礼の性格 |
| 第2章 名物茶器の史の変遷 | 第2章 名物室礼の奉行 |
| 第3章 織田信長による名物蒐集 | 第3章 豊臣政権の確立と
「ゆるし茶湯」の終焉 |
| 第4章 豊臣秀吉による名物蒐集 | 第4章 織豊期の座敷飾りと「大名茶湯」 |



▶ A5判・494頁／定価7,875円

ISBN4-7842-1318-X

(5ページに著者エッセイ掲載)

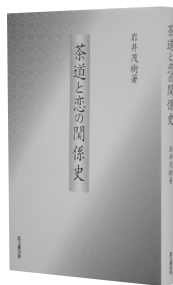
岩井茂樹著

茶道と恋の関係史

【最新刊】

「恋は茶道の精神に反する」とされた——谷崎潤一郎の随筆にあった興味深い一節をきっかけに、恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探る。

茶会の掛物のほか、茶道具の銘に隠された「恋」を紹介し、なぜ恋歌が問題となり、また使われることもあったのかを明らかにする。



まえがき—茶と恋の出会い

第1章 茶書中に見られる恋への言説
はじめに／恋歌の忌避(1) 江戸時代の茶書
／恋歌の忌避(2) 明治以後の茶書／おわりに
—恋の掛物は用いてもよいのか？

第2章 恋の茶会—恋の掛物をなぜ使うのか？
はじめに／掛物に関する若干の考察—季節
感の誕生と染筆者尊重意識について／恋歌
茶会の意味／おわりに—亭主が恋歌を掛ける時

第3章 銘の世界—隠された恋の役割

はじめに／銘研究の現状と成果／歌銘につ
いての分析／小堀遠州のたくらみ／おわりに
—銘における恋とは何か？

第4章 恋とは何か？—恋歌の本意と、千
家流茶道にとっての恋歌

はじめに／恋の語源について／恋の本意と
は？／千家が恋歌を掛ける訳／なぜ千家流
茶道は恋歌を禁じたのか／おわりに—今後
の課題と展望

▶ A5判・232頁／定価3,990円

ISBN4-7842-1313-9

(6ページに著者エッセイ掲載)

三藐院 近衛信尹

残された手紙から

前田多美子著

本阿弥光悦・松花堂昭乗とともに「寛永の三筆」として謳われてきた近衛信尹の生涯を、彼の残した手紙から読み解き、隠れた素顔を明らかにし、さらに能書としていかに遇されてきたのか、その書とはどのようなものであったのかを改めて考えなおす。

▶ A5判・270頁／定価2,415円

ISBN4-7842-1299-X

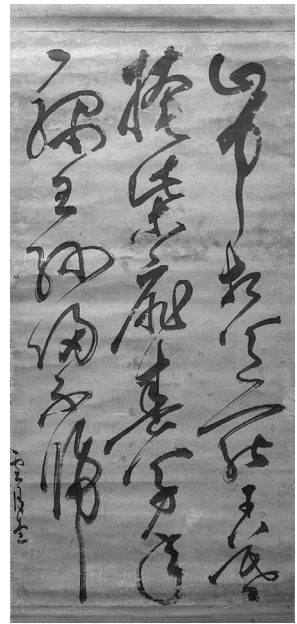
本能寺と信長

藤井 學 著

本能寺の変で自刃した天下人・信長の、法華宗や茶の湯との深い結びつきを、史料にもとづく史実と豊富な挿話を折り込んで描く。永年、中世法華宗・文化史研究にとり組んできた歴史家の鋭い史眼が冴える好著。

▶ 46判・230頁／定価2,310円

ISBN4-7842-1134-9



新発見の通信使遺墨
1682年写字官李錫(号雪月堂)
の筆跡

発表が行われた。

そして、今年十月十四日には、呉市下蒲刈町において朝鮮通信使交流大会が開催される予定である。

一方、韓国では、二〇〇三年三月七日、釜山市において「朝鮮通信使文

化事業推進委員会」(委員長には釜慶大学校長姜南周氏)を創設、機関誌として『朝鮮通信使』を刊行、この中で「朝鮮通信使研究の先駆者たち」と題して、姜在彦・李元植・仲尾宏・上田正昭諸氏との対談が連載された。

また通信使文化事業の一環として、二〇〇五年十二月に「朝鮮通信使学会」を結成、『朝鮮通信使研究』創刊号が出版された。この中には、洪善杓「朝鮮後期通信使随行画員と日本南画」、李元淳「朝鮮王国の対外政策と朝鮮通信使の位相」、仲尾宏「朝鮮文化の理解と記憶——相互蔑視から相互理解へ——」など、注目に値する好論文が多数収録されている。

このほかに、研究活動として、今年四月二十二日、朝鮮通信使学会主催の国際学術シンポジウムがソウルで開かれ、筆者は「朝鮮通信使と韓日文化交流」と題して基調講演を行い、雨森芳洲庵館長平井茂彦氏による「雨森芳洲と朝鮮通信使」が発表された。最後に、近年刊行された朝鮮通信使に関する研究書目を挙げておく。

『朝鮮通信使関係資料目録』(青丘学術論集・第21集)

三宅英利『近世の日本と朝鮮』(講談社学術文庫)

姜在彦『朝鮮通信使がみた日本』(明石書店)

上野敏彦『辛基秀と朝鮮通信使の時代』(明石書店)

日韓共通歴史教材『朝鮮通信使』(明石書店)

任東権『朝鮮通信使と文化伝播』(第一書房)

池内敏『大君外交と武威』(名古屋大学出版会)

田代和生『倭館 鎖国時代の日本人町』(文春新書)

対馬宗家文書『朝鮮通信使記録』別冊上・中・下(ゆまに書房)

辛基秀・仲尾宏『朝鮮通信使の旅』(明石書店)

田中健夫『対外関係史研究のあゆみ』(吉川弘文館)

(元近畿大学文芸学部教授)

朝鮮通信使の研究

李 元植著

待望の復刊[10月刊]

江戸時代、日本と朝鮮の善隣外交において、その根幹をなしていた朝鮮通信使——彼らが訪日して果たした重要な役割を政治外交と文化交流の両側面からとらえた大著。

◆内容目次◆

序 論

第1部 日朝関係と朝鮮通信使

日朝の交隣体制／朝鮮通信使の来聘

第2部 通信使行と文化交流

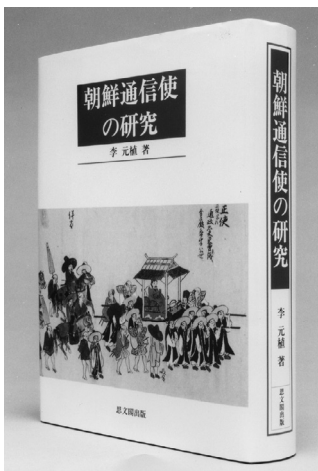
通信使と日本人との交歓／詩文贈答と筆談／初期の交歓／天和度(1682)の使行／正徳度(1711)の使行／寛延度(1748)の使行／明和度(1764)の使行／文化度(1811)の使行

第3部 通信使の活躍

通信使の倭学訳官／淀川と通信使／通信使の往復経路／相互認識

第4部 通信使関係資料

通信使の遺墨／通信使印譜／通信使行列絵図／通信使の訪日紀行録／筆談唱和集



▶ A5判・730頁／定価15,750円
ISBN4-7842-0863-1

近年の朝鮮通信使研究について

李 元植

江戸時代の日・朝関係は、豊臣秀吉の侵略後の和平克服、すなわち交隣関係の復旧から始まる。この善隣外交関係は、徳川将軍と朝鮮国王との間で対等の国交を結び朝鮮通信使の訪日を実現させたことである。

初期の朝鮮使節は戦乱中、日本に連行された俘虜の刷還が焦眉の課題であったが、後には徳川征夷大將軍の代替り祝儀の賀使として定例化され、一六〇七年（慶長十二）から一八一一年（文化八）にいたるまで前後十二回来日した。

朝鮮通信使の日本訪問は、幕府当局はもちろんのこと、諸大名をはじめ町人や百姓にいたるまで、異常なほど関心を寄せていた。なかでも日本の儒者文人たちは通信使との接触や交流を終身の榮譽として、通信使が入国するたびに、沿道の客館に馳せ参じ相競って面接を求め、漢詩の唱酬に歓を尽くし、書画の揮毫を請い、また筆語によって中国や朝鮮の政情をさぐり、歴史や風俗をたずね、朝鮮人の著書や医薬本草について疑いを質すなど、多くの佳話をのこしている。

一方、朝鮮国としては、このような文化的接触に備えて、特に詩文と書芸に長じた文才を選んでこれにあてたのである。

このように、朝鮮使節の訪日における交歓、すなわち筆談唱酬の文事こそ両国の善隣友好を支えた基調とする視点から、交歓の実態をさぐるとともに、そこに現れる両国文化の異同、相互の認識などを究明しなければならぬと思う。

さて、近年頼に朝鮮通信使に対して関心がたかまっている。日韓両国における研究活動とその成果を紹介する。

まず、日本では、通信使とゆかりの深い地域を中心に「縁地連朝鮮通信使地域史研究会」を結成、対馬において、二〇〇四年十一月二十八日に日韓交流大会が開かれ、貫井正之氏による「東海地方における朝鮮通信使の事蹟研究について」などの研究発表が行われた。

二〇〇五年十一月十九日には、岐阜県大垣市において、朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会を開催、柴村敬次郎氏による「朝鮮通信使苦難の歴史——釜山から大坂まで——」の研究

オンドルと畳の国 近代日本の 朝鮮観

三谷憲正著

佛教大学鷹陵文化叢書⑨

従来「閔妃」と言われてきた肖像写真は、実は別人である可能性がきわめて高い、という刺激的な論考をはじめ、雑誌メディアや小説にあらわれている近代日本の朝鮮観について、真摯な学問的良心をもって問い直す。

▶46判・232頁／定価1,890円 ISBN4-7842-1161-6

古代日本の輝き

上田正昭著

日本の歴史と文化を支えている「古代的精神・古代的要素」とはなにか——広くアジア史をも視野に入れて折口民俗学を継承する著者が喜寿の節目にまとめた一書。

▶46判・300頁／定価1,785円 ISBN4-7842-1167-5

朝鮮医事年表

三木榮著

有史以来第二次世界大戦終結までの朝鮮史料および関連史料による医学・医療・疾病関係の事跡を年次・月次・日次に別け掲載した医事年表。典拠は全て明記。東洋医学史の基本的文献。

▶A5判・586頁／定価21,000円 ISBN4-7842-0397-4

補訂朝鮮医学史及疾病史

三木榮著

本書は朝鮮医学史と朝鮮疾病史の二部構成よりなり、広く自然科学史・本草学・獣医学さらにアジア医学史との相互関係にもふれる大作。初版私家版は昭和49年刊。

▶B5判・650頁／定価17,850円 ISBN4-7842-0653-1

増補 蓮月尼全集

村上素道編

【待望の復刊】

江戸末期の歌人大田垣蓮月は、二度結婚するも夫の放蕩や病死、子どもの夭折など恵まれず、33歳で出家の後隠棲生活を送ることになる。多芸で知られるがとくに作陶と和歌に才能を発揮し、同時代の歌人たちとの交流の中で、閑雅・清新な作風を磨いていった。

本書は、蓮月の歌・消息・伝記を取めた『蓮月尼全集』（昭和2年）に、新たに発見された歌集、書画帖（花くらべ）、消息53通を増補した昭和55年版の復刊。

『花くらべ』
画帖

増補
和歌篇
蓮月歌集
花くらべ
消息篇
書簡53通



和歌篇
モノクロ口絵（5点）
海人の刈藻
拾遺
消息篇
モノクロ口絵（5点）
富岡鐵齋宛35通 他 書簡256通
伝記篇
モノクロ口絵（7点）
年譜
大田垣蓮月伝
逸事篇（「財宝は害あって益無し」他
の逸事30篇を収録）

▶ A5判・850頁／定価12,600円

ISBN4-7842-0182-3

検索！短冊。「e-短冊ドットコム」
あなたのお気に入り探しをお手伝いいたします。



このサイトに収載されているものは、すべて真筆、この世に一点しかない美術品です。あなたが尊敬する人の作品、今の気持ちにピッタリのことば、あるいは季節を飾るのにふさわしい短冊がきっと見つかります。

サイトのアドレスは <http://e-tanzaku.com>

10月の特集は大田垣蓮月です

没後220年 蕪村

逸翁美術館・柿衛文庫編

南画・俳画・嫁入手・扇面・草稿・短冊・書簡など、新出作品もふくめ全176点を解説を付してカラーで収録。書簡については巻末に翻刻・解説を併載。

▶ A4判・210頁／定価2,310円

ISBN4-7842-1162-4

与謝蕪村筆「奥の細道画卷」 全1巻
岡田彰子解説

蕪村が敬愛する松尾芭蕉の『奥の細道』の全文を書きし、13点の挿画を添えた自筆画卷の完全複製。

▶ 卷子仕立・桐箱入・FMスクリーン印刷

／定価136,500円

ISBN4-7842-1118-7

くずし字辞典

波多野幸彦監修／東京手紙の会編集

天皇・公家・武将・僧侶・茶人・文人などの自筆消息からその筆跡（35,000字）を収集。著者総数400人を越える筆跡を採集し、採字した各文字にはその人名を明らかにし、巻末に簡単な略歴を備えた人名索引を付した。

▶ A5判・1400頁／定価6,300円

ISBN4-7842-1024-5

新興俳人の群像 「京大俳句」の光と影

第20回俳人協会評論賞受賞

田島和生著

「京大俳句」の成り立ち、新興俳句と日中戦争など、「京大俳句」の盛衰を軸に、新興俳句運動とその時代背景、俳人たちの動静と作品を紹介。読みやすい大型活字使用。挿入図版20余点。

【内容目次】 新興俳句運動の萌芽／新興俳句の金字塔「京大俳句」／新興俳句運動のうねり／日中戦争と俳句／弾圧の嵐／広がる俳人弾圧／「俳句報国」時代／俳人略歴・俳句年表・参考文献

▶ 46判・298頁／定価2,415円

ISBN4-7842-1251-5



上賀茂のもり・やしろ・まつり

大山喬平監修／石川登志雄・宇野日出生・地主智彦編

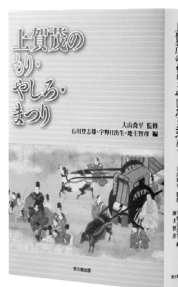
古文書・古記録をはじめ建築や神饌などの姿・形のなかに古い神社と失われた日本文化が受けつがれている上賀茂神社。平成18年3月に神社所蔵の約14,000点の文書が重要文化財に指定されたことを記念して、同社主催の歴史文化講座の成果をまとめ、上賀茂神社をめぐる神事・歴史・文化をわかりやすく紹介。

第1章 もりのいとなみ（歴史編） 平安時代の上賀茂社／源平争乱期の上賀茂社／承久の兵乱と上賀茂社／南北朝の内乱に生きた神主と氏人たち／戦国争乱と上賀茂社／算用状と覚書を読む／聚楽第をめぐる豊臣秀次と賀茂の氏人／賀茂別雷神社と賀茂川／社家町に住む人々／上賀茂社と貴布祢社／明治維新と賀茂祭／明治維新期の神社と社家

第2章 まつりといのり（文化編） 御戸代神事と猿楽能／祭祀と神饌／遷宮と造替／一紙にても取隠し、あるいは加筆いたし、または少しも写取まじく候

第3章 やしろのまかない（諸国荘園編） 安曇川御厨と供祭人／若狭国の賀茂祭と宮河荘／あそびたわぶれの縁／播磨国の上賀茂社領荘園／加賀国金津荘と能登国土田荘

▶A5判・412頁／定価2,940円



ISBN4-7842-1300-7

神々の酒肴 湖国の神饌

中島誠一・宇野日出生共編

全国有数の神社王国を誇る滋賀県下の神社祭礼で供物として供えられる神饌100件を祭礼行事にそって紹介。鎮座地・連絡先・アクセスなども備えた探訪ガイドブックともなる（カラー25点・モノクロ150点）。

▶B5判・92頁／定価3,360円 ISBN4-7842-1008-3

神霊の音ずれ 太鼓と鉦の祭祀儀礼音楽

朱 家駿 著

祭祀儀礼に用いられる太鼓や鈴・鉦の音楽的な機能と本質はどこにあるのか。―祭祀儀礼の音をさぐるフィールドワークと象形文字に発した古代漢字の分析を重ね合わせることによって神霊と音のさまざまなすがたを明かす。

▶A5判・196頁／定価3,675円 ISBN4-7842-1095-4

一宮ノオト

齋藤盛之著

全国68の一宮を巡拝した著者が、神代の由緒、古代人のロマン、現在の信仰の姿まで、それぞれの一宮についてイメージネーションあふれる筆致で語る。オールカラー。

▶B5判・180頁／定価2,310円 ISBN4-7842-1138-1

日本の通過儀礼

八木 透 編

佛教大学鷹陵文化叢書 4

誕生・成人式・結婚など、人生の節目ごとに行われる通過儀礼を通して生み出される、親族・地域における人と人の関わりや繋がりのあり方などを多くの事例を通して探る。

▶46判・280頁／定価1,995円 ISBN4-7842-1075-X

天神祭

火と水の都市祭礼

大阪天満宮文化研究所編

平成14年の菅原道真公1100年祭を記念して、日本三大祭りのひとつである“火と水”に彩られた天神祭の歴史とすがたを豊富な図版と8篇の論考で多面的に明かす。

▶B5判・200頁／定価2,730円 ISBN4-7842-1092-X

百人一首万華鏡

白幡洋三郎編

日本人の生活全般にわたって深い関わりをもつ百人一首を、歌の解釈はもとより、選び方、カルタ、翻訳など、さまざまな角度から紹介。カラー図版多数。

▶B5判・196頁／定価2,520円 ISBN4-7842-1223-X

棟札の研究

水藤 真 著

寺社の上棟式や大修理の際に記録として残された棟札。国立歴史民俗博物館の調査報告書をもとに、その意味・価値などを多面から検討し、研究の整理と方向性を示す。

▶A5判・230頁／定価3,990円 ISBN4-7842-1243-4

京・近江・丹後大工の仕事

近世から近代へ

建部恭宣著

江戸時代から明治・大正にかけての京・近江・丹後における大工の活動状況と近代化への歩みを史料の精査に基づいて明かした労作。

▶A5判・270頁／定価5,775円 ISBN4-7842-1282-5

京都 高瀬川

角倉了以・素庵の遺産

石田孝喜著

角倉了以により開削され、洛中と伏見港をむすぶ高瀬川。運河開削の歴史をたどり、舟入や橋の変遷など、多方面から歴史と文化のすがたを描く。図版多数。

▶A5判・250頁／定価2,310円 ISBN4-7842-1253-1

京の鴨川と橋

その歴史と生活

門脇禎二・朝尾直弘共編

歴史都市京都のシンボリック的存在である鴨川とそこに架かる橋について、平安京以前から昭和までの様子を具体的に明らかにし、人々の暮らしの中での意味を探索。

▶46判・250頁／定価2,310円 ISBN4-7842-1082-2

奈良女子大学21世紀COEプログラム

COE研究員

「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」

桑原祐子

21世紀COEプログラムとは、「我が国の大学に世界水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図ること」を目的として文部科学省が優れたプログラムに重点的な支援を行う事業です。奈良女子大学は、平成十六年度の「21世紀COEプログラム（革新的な学術分野）」に採択され、五カ年計画でプログラムを実施することになりました。

奈良女子大学21世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」は、日本の古代国家が誕生した場として豊かな歴史が息づいている奈良の特徴と本学が往時の平城京内に立地するという利点を生かし、「古代都市」をキーワードにして、古代日本の形成過程とその特質を解明することを目的としています。本プログラムの特色は、考古学・歴史学・地理学・国語学・国文学・中国語学・建築史学・修景学・美術史学・生活文化史学など、古代日本に関わる様々な分野の研究者が参加している点にあります。これら諸学問分野を統合し、東アジア史・ユーラシア史を中心とした世界史的視野を持ちつつ、古代日本の形成過程とその特質を解明し、そこで得られた研究成果や諸情報を集積・発信する役割をも果たす研究教育拠点となることを目指しています。幸い奈良には奈良文化財研究所・橿原考古学研究所・奈良国立博物館・正倉院事務所をはじめとする多くの文化財関係機関があります。これら諸機関の協力も得つつ、様々な学問分野の研究者が垣根を越えて「古代都市」に取り組んでいます。

中国・韓国・東アジア諸都城との比較研究を通じて、日本都城とそれらとの類似性と日本都城の独自性が明確になってきました。漢訳仏

典・万葉集・正倉院文書・木簡等の検討を通じて、漢字による日本語表記と中国文との類似性や相違点が明らかになってきています。このような研究成果は奈良女子大学21世紀COEプログラム報告集八冊にまとめています。また、GISを利用し、地図情報の上に発掘の成果や様々な情報を重ねた「奈良盆地歴史地理データベース」の構築にも取り組み、今後の研究や社会教育に活用したいと考えています。

本プログラムの目標の一つに若手研究者の支援と育成があります。事業推進担当教員のみならず、研究の進展を支えるべき若い人材が多数研究活動に参加しています。このような若手研究者への支援事業の一つとして、古代の漢字文献を読み解くための実践的講読会「連続講読会 漢訳仏典十講」（講師 松尾良樹）を開催しています。次回は十一月十八日（土）。来聴歓迎です。

これまで、様々な研究会やシンポジウムを行ってきました。今後も充実した内容の研究会やシンポジウム等を予定しています。本プログラムの活動状況は、ホームページ（<http://kotonara-wu.ac.jp/coe/>）やニューズレター「奈良と古代」（季刊）で広く情報発信しています。来る十一月十一日（土）～十二日（日）には、「古代都市の空間構造と思想―その現代的展開を目指して―」と題し、国際シンポジウムを開催します。会場は、奈良文化財研究所平城宮跡資料館と奈良女子大学を予定しています。中国・韓国・イタリアから歴史遺産の整備に携わっておられる研究者をお招きし、現代の「古代的景観」について、事例をふまえて議論を深めたいと考えています。多数のご参加をお待ち申し上げます。

公家と武家Ⅲ 王権と儀礼の比較文明的考察

【最新刊】

笠谷和比古編

I 日本 [古代・中世]

後七日御修法から見た国家と宗教

頼富本宏

摂関期の天皇の葬送の実態

臈谷 寿

日本婚姻史の一視角——摂関家の特異性を考える——

辻垣晃一

室町の十字架——足利義嗣と一休宗純——

平山朝治

II 日本 [近世]

禁裏と二条城をめぐる政治史的表象——近世の国制と天皇——

笠谷和比古

近世民衆、天皇即位の礼拝見

森田登代子

徳川時代の孔子祭礼

J・マクマレン

紅葉山楽所をめぐる一考察——幕府の法会と礼楽思想の関係性を中心として——

武内恵美子

江戸時代の礼法文化と社会秩序の根拠——法制史的な立場からの再評価——

M・キンスキー

孝明天皇の死因について——毒殺か病死か——

杉立義一

III 東アジア

高麗時代の縁坐・連坐制に関する一考察

平木 實

中国の皇帝になる方法

大庭 脩

「皇考」をめぐる論争から見た皇権と親権——人の後たる者の「礼」についての中日比較——

官 文娜

清朝皇帝における対面接触の問題

谷井俊仁

IV 中東・西欧

天皇制とカリフ制——王権のコスモロジーの構造比較——

三木 亘

墓所・葬儀からみたビザンツ皇帝権

井上浩一

君主記念の施設——日仏比較史の試み——

江川 温

▶ A5判・440頁／定価8,190円

ISBN4-7842-1322-8

公家と武家 その比較文明的考察

村井康彦編

I 公家と武家の諸相 天皇・貴族・武家（村井康彦）武家社会研究をめぐる諸問題（笠谷和比古）散位と散位寮（瀧浪貞子）後宮の成立（橋本義則）藤原道長の禁忌生活（加納重文）九条兼実の家司をめぐる（西山恵子）地方武士の文芸享受（源城政好）室町期武家故実の成立（川嶋将生）中世門跡寺院の組織と運営（下坂守）

II 貴族とは何か 漢代の貴族（大庭脩）門閥貴族から士大夫官僚へ（竺沙雅章）イスラム世界における貴種（三木亘）11～12世紀のビザンツ貴族（井上浩一）フランス中世の貴族と社会（江川温）日本古代における「貴族」概念（臈谷寿）貴族・家職・官僚制度（谷口昭）近衛基熙延宝八年関東下向関係資料（名和修）

▶ A5判・444頁／定価8,190円 ISBN4-7842-0891-7

公家と武家 II 「家」の比較文明的考察

笠谷和比古編

I 「氏」から「家」へ 氏上から氏長者へ（村井康彦）山階寺と興福寺（瀧浪貞子）古代社会の婚姻形態と親族集団構造について（官文娜）古代貴族の営墓と「家」（橋本義則）平安時代の公卿層の葬墓（臈谷寿）

II 日本社会における「家」の展開 「イエ」と「家」（石井紫郎）イエ社会の盛衰とイモセの絆（平山朝治）延暦寺における「山徒」の存在形態（下坂守）九条兼実における「家」（加納重文）五摂家分立について（名和修）中世公家と家業（西山恵子）三条西家における家業の成立（源城政好）戦国期の公家と将軍（川嶋将生）医師の家業の継承について（杉立義一）家中の成立（谷口昭）幕末公家の政治空間（井上勝生）

III 外国社会における「家」の諸相 中国古代の武士の「家」（大庭脩）北宋中期の家譜（竺沙雅章）宋代の宫廷政治（平田茂樹）オスマン帝国における君主の「家」と権力（鈴木董）「親族の賛同」は何を表現しているのか（江川温）

▶ A5判・530頁／定価9,870円 ISBN4-7842-1019-9

国際シンポジウム

笠谷和比古編

公家と武家の比較文明史

I 文人型社会と戦士型社会

天皇・公家・武家（村井康彦）新羅王朝の貴族制秩序における変革の本質——武人貴族制から官人制の貴族制への転換の過程——（姜希雄）武官と文官——高麗王朝における均衡状態の模索——（E・J・シュルツ）中世盛期の戦士貴族社会における紛争のルール（ゲルト・アルトホフ）ほか

II 王権と儀礼

中国周代の儀礼と王権（郭齐勇）王、カリフもしくはスルタン——1920年、シリアはなぜ王政を選んだのか——（アブドゥルカリム・ラーフェク）ローマ皇帝からビザンツ皇帝へ（井上浩一）「礼」「御武威」「雅び」——徳川政権の儀礼と儒学——（渡辺浩）ほか

III 貴族とは何か

日本古代の貴族（臈谷寿）貴族とは何か——東アジアの場合——（池田温）貴族とは何か——西ヨーロッパ中世の場合——（江川温）

IV 封建制度と官僚制度

9～12世紀フランスにおける王権、権門、助言による統治（イヴ・サシエ）日本中世における文人政治と武人政治（上横手雅敬）オスマンの家産官僚制とティマール体制（鈴木董）イングランドにおける後期封建制度——リッチモンドシャーの場合——（アンソニー・ボラード）ほか

V 思想・宗教・文化

江戸時代の政治・イデオロギー制度における神道の地位——吉田神道の場合——（フランソワ・マセ）朝鮮時代における両班の郷村支配と郷約（李成茂）騎士道とキリスト教（リチャード・W・ケッパー）

▶ A5判・490頁／定価8,400円 ISBN4-7842-1256-6



中世日本の政治と文化

森 茂暁著

思文閣史学叢書

10月刊

鎌倉時代から室町時代にかけて、現存している古文書や、政治と深く関わった宗教者から、「中世日本」とはどのような時代だったのかをひもとく、さらに『増鏡』や『太平記』、『博多日記』という記録史料など、文芸作品からのアプローチをも試みる。中世の政治と文化を総合的に明らかにした論考15篇を収録。

内容目次

第1章 政治と支配

大塔宮護良親王令旨について
 令旨の書き止め文言
 —征西將軍宮懷良親王と大塔宮護良親王—
 邦省親王の悲願—もう一つの大覚寺統分枝—
 赤松持貞小考—足利義持政権の一特質—
 足利將軍の元服—足利義満より同義教に至る—

第2章 政治と宗教

三宝院賢俊について
 日記に引用された文書とその性格
 —『満濟准后日記』を素材として—

五壇法の史的研究

元亨三年十二月の「御産御祈」五壇法について
 室町時代の五壇法と護持僧
 —足利義持・同義教期を中心に—

【資料】五壇法修法一覧

第3章 政治と文芸

朝廷と幕府—鎌倉時代の朝幕関係と『増鏡』—
 後醍醐天皇—その怨霊と鎮魂、文学への影響—
 『太平記』と足利政権—足利直義の係わりを中心に—
 『太平記』に引かれた文書
 『博多日記』の文芸性と九州の元弘の乱

もり・しげあき…1949年長崎県生まれ。山口大学教授を経て1997年より福岡大学人文学部教授。文学博士。

▶ A5判・480頁／定価9,450円

ISBN4-7842-1324-4

京都文化の伝播と地域社会

源城政好著

思文閣史学叢書

10月刊

京都とその近郊の中・近世文化史に取り組んできた著者が、今までの成果をまとめた一書

●●●内容目次●●●

I 地域社会の躍動

東寺領上桂庄における領主権確立過程について
 —伝領とその相論—
 山間庄園の生活—山城国禪定寺とその周辺—
 近江国河上庄の変遷

II 公武の文芸交流

小京都—領国文化論
 地方武士の文芸享受—文化と経済の交換—
 三条西家における家業の成立
 商圈都市界と南蛮文化

本阿弥光悦と鷹ヶ峯村

III 被差別民衆の諸相

洛中洛外図にみえる河原者村について
 牛馬皮と鹿皮—卑賤観のあり方の相違をめぐって—
 散所の諸相

IV 乱世を生きた人々

近衛政家と在地の土豪・岡屋六郎
 足利義昭
 真木嶋昭光—流浪將軍義昭を支え続けた側近—

げんじょう・まさよし…1946年生まれ。宇治市歴史資料館長を経て、現在立命館大学COE推進機構客員研究員。

▶ A5判・400頁／定価8,190円

ISBN4-7842-1325-2

権者の化現—天神・空也・法然—

今堀太逸著

佛教大学鷹陵文化叢書⑮

最新刊

権者の化現とは、仏・菩薩が衆生を救うために、種々に姿を変えてこの世の中に現れることをいう。本書は天神・空也・法然を通して、日本人の災害観と仏典との関わりや六波羅蜜寺の信仰、浄土宗の布教について読み解く。

いまほり・たいつ…1950年大阪府交野市生まれ。佛教大学文学部教授。

▶ 四六判・312頁／定価2,415円

ISBN4-7842-1321-X



東寺百合文書

〔第1期全10巻〕

京都府立総合資料館編

〔年1回刊行〕

総数18,000点・27,000通におよぶ国宝「東寺百合文書」から『大日本古文書』未収録の「カタカナ之部」を翻刻。
 第1巻(イ・ロ函1) 490頁／定価9,975円 ISBN4-7842-1182-9
 第2巻(ロ函2) 446頁／定価9,975円 1224-8
 第3巻(ロ函3) 450頁／定価9,975円 1266-3
 第4巻(ロ函4・ハ函1) 450頁／定価9,975円 【10月刊】 1319-8

佐々木六角氏の系譜 系譜学の試み

佐々木哲著

【2刷】

平安から戦国まで、佐々木六角氏の系譜をたどり、35人について、その行状を明らかにする。佐々木六角氏の人物事典としても有用。【内容】一品式部卿敦実親王／近江守信綱／江州宰相義久／朝倉義景／彈正少弼定頼／中務大輔高盛など35名
 ▶ 四六判・200頁／定価2,310円 ISBN4-7842-1290-6

岩倉使節団における宗教問題

山崎渾子著

最新刊

神道皇国主義を宣言しキリスト教禁制のまま諸国歴訪に出かけることになった岩倉使節団は、その後の明治政府の宗教政策にどのような影響を与えたのか。『米欧回覧実記』を中心とした使節団関係史料を読み込むことで検証する。

▶A5判・250頁／定価3,990円 ISBN4-7842-1316-3

昭和初期 一移民の手紙による生活史

中野 卓・中野 進 編 ブラジルのヨッチャン

昭和3年(1928)1月にブラジルへ移民として出国した中野義夫が日本へ送った書簡を中心に編纂。一通一通の手紙に移民の生きた声が反映されており、昭和という時代の側面をとらえた貴重な資料。

▶A5判・294頁／定価2,940円 ISBN4-7842-1301-5

吉田清成関係文書

〔全7冊〕

京都大学国史研究室編

京都大学史料叢書

政治家・官僚・知友からの書翰や書類などの膨大な文書群を翻刻。幕末の留学生たちの動向に光をあて、明治初年の政治・経済・外交に新たな事実を提供する。

【既刊】書翰篇(1)～(3) ▶A5判・平均400頁(各)定価13,650円
ISBN4-7842-0804-6/-0925-5/-1048-2

増補・改訂 西村茂樹全集

〔全10巻〕

(社)日本弘道会編／古川哲史監修

▶A5判・平均750頁(年2回刊行)

第1巻(著作1) 定価17,850円 ISBN4-7842-1189-6

第2巻(著作2) 定価17,850円 -1212-4

第3巻(著作3) 定価19,425円 -1255-8

【最新刊】第4巻(著作4) 定価17,850円 -1317-1

貴族院と立憲政治

内藤一成著

幸倶楽部が主導する貴族院の解明にとりくみ、それをもとに内閣・政党との相互関係を明らかにすることで、近代日本で展開された立憲政治の実像に迫る。

▶A5判・438頁／定価7,980円 ISBN4-7842-1278-7

明治維新期の政治文化

佐々木 克編

政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みた一書(11篇収録)。

▶A5判・388頁／定価5,670円 ISBN4-7842-1262-0

近代日本と幕末外交文書編纂の研究

田中正弘著

外交文書の編纂事情、編纂した外交文書集の内容構成、諸本の性格、また徳川幕府外国方の編集構想から明治初期外務省の編集組織の確立過程、太政官における幕末外交文書編纂の開始事情とその後の推移など、広範な第一次史料を駆使してその全容をはじめて具体的に考察。

▶A5判・480頁／定価10,290円 ISBN4-7842-0958-1

鮫島尚信在欧外交書簡録

鮫島文書研究会編

鮫島尚信が初代駐仏公使として在勤中に、英・独・仏その他ヨーロッパ各国の外相ならびに政府要人や学界・産業界の人々に宛てて出した公信442通(英仏)を原文と翻訳で収録。明治初期におけるわが国現地外交の実態を知る上で貴重な史料集。

▶A5判・620頁／定価13,440円 ISBN4-7842-0962-X

「封建」・「郡県」再考

張 翔・園田英弘 共編

東アジア社会体制論の深層

東アジアの社会体制(あるいは統治機構)を表す「封建」と「郡県」という伝統的大概念を多角的に検討し、その論理的枠組や時代的要請による理論的発展の構造を解明しようとする試み。国際日本文化研究センターで行われた共同研究の成果13篇。

◆◆◆内容目次◆◆◆

総 論—封建郡県論の背景と展望—(張翔・園田英弘)

I 封建・郡県概念の普遍化の試み

歴史学的概念としての〈封建制〉と〈郡県制〉—「封建」「郡県」概念の普遍化の試み—(水林彪)

政治学からみた「封建」と「郡県」—概念の限定のために—(中田喜万)

「天下公共」と封建郡県論—東アジア思想の連鎖における伝統中国と近世日本—(張翔)

II 中国における封建・郡県論

顧炎武「郡県論」の位置(林文孝)

中国における「封建・郡県論」と公共性—政治システムと法・道徳—(本郷隆盛)

清末中国社会と封建郡県論(杉山文彦)

封建制は復活すべきか—封建制の評価をめぐる清末知識人の議論—(佐藤慎一)

III 日本における封建・郡県論

近世日本の封建・郡県論のふたつの論点—日本歴史と世界地理の認識—(前田勉)

「民の父母」小考—仁斎・徂徠論のために—(田尻祐一郎)

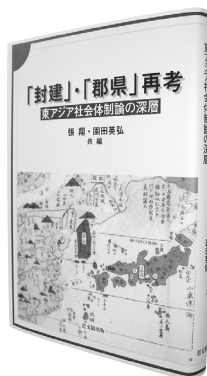
近世日本の公儀領主制と封建・郡県制論(中山富弘)

森有礼の「封建」・「郡県」論—制度論的思考の展開—(園田英弘)

近代日本における「封建」・「自治」・「公共心」のイデオロギイ的統一覚書(松田宏一郎)

清末の立憲改革と大隈重信の「封建」論—他国の政治改革をめぐる自国史認識—(曾田三郎)

▶A5判・412頁／定価6,825円



ISBN4-7842-1310-4

史料探訪

26

秀吉の金の茶室

—小早川隆景・吉川元長上坂記

村井祐樹

東京大学史料編纂所助手

東京大学史料編纂所は、前近代日本史研究の基礎となる『大日本史料』などの史料集を編纂する機関です。その歴史は江戸時代にまで溯り、寛政5年(1793)、国学者塙保己一(群書類従などを編集した碩学)が、幕府の援助をうけて和学講談所を開設したのが始まりです。その後幕末・維新の動乱期を経て明治政府が成立しますが、明治政府の修史事業はこの事業を引き継ぐ形で始められ、明治2年(1869)3月、和学講談所跡に史料編輯国史校正局が開設されました。史料編輯国史校正局は、明治2年10月大学校の中に移設され国史編輯局となりましたが、同年末に閉鎖されます。明治5年10月、改めて太政官正院に歴史課、地誌課が設けられ、ついで修史局、修史館となり、内閣制度の成立とともに臨時修史局となりました。

明治21年(1888)10月、帝国大学に国史科を創設するに際し、修史事業は帝国大学に移管されますが、当初は臨時編年史編纂掛と呼ばれ、その後内務省地理局から地誌編纂事業を合併して史誌編纂掛と改称されました。明治26年(1893)、編年史の形の編纂事業は停止され、代わって、蒐集した史料自体を編纂刊行することになり、明治28年4月、帝国大学文科大学に史料編纂掛が設置されました。最初の成果である『大日本史料 第六編』『大日本古文書 編年文書』が発刊されたのは、明治34年(1901)です。明治38年4月には史料編纂官の官制も整い、大正13年(1924)には事業の重要性が認められて職員の増員が行われました。現在の史料編纂所という名称になったのは昭和4年(1929)7月のことでした。この間、明治39年には外務省から『幕末外国関係文書』編纂の事業を、昭和24年には文部省から維新史料編纂の事業を引き継ぎました。昭和25年(1950)4月、史料編纂所は東京大学文学部から独立し、東京大学附置研究所に改組されました。刊行する史料集も増加し、昭和27年(1952)には『大日本古記録』が、翌28年には『大日本近世史料』の出版が開始され、現在にいたっています。

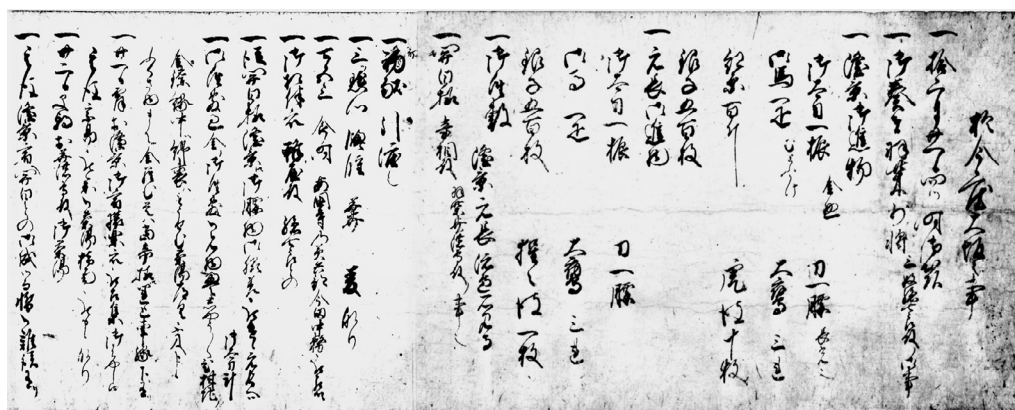
以上のように、史料編纂所は史料集の編纂を本務とする訳ですが、そのための史料探訪事業も並行して行われました。と言っても、原本史料ではなく、複本史料の集積という形です。戦前(明治18年～)は、史料を墨で写した謄写・影写という方式で、戦後になると35mmマイクロカメラによる撮影によって、現在に至るまで複本作成が行われています。

一方で、篤志家からの原本史料の寄贈や寄託(現在も受け付けております)、また購入によっても史料の収集が計られています。今回紹介する「小早川隆景・吉川元長上坂記」も、購入史料の中の一つです。

天正13年(1585)12月、豊臣氏と毛利氏の正式和睦の証として(和睦自体は同12年6月に成立)、小早川隆景・吉川元長が大坂を訪れました。その時の様子を記録したものが「小早川隆景・吉川元長上坂記」です。

この史料はもとは、早稲田大学図書館長などを務めた市島春城(謙吉)の所蔵で、昭和34年(1959)古書店を経て本所が購入しました。現在は卷子装ですが、1932年本所作成の影写本『市島謙吉氏所蔵文書』によれば、帖装であったと思われます。史料の内容を見えますと、12月21日、隆景・元長が大坂城に出頭する場面から始まっており、大坂城内、秀吉の饗応の様子などが詳細に描かれています。そして会見後、12月25日に大坂を出発し、翌14年正月1日、備中(現岡山県)笠岡に到着したところで擱筆されています。今回紹介しますのは、有名な「金の茶室」が描写されている部分です。

御座敷過、金ノ御座敷御見物、^(猩々)暁しやうへひ、^(毛)柑地金鑲縁、中ハ錦、裏ハもうせむ、茶湯道具不及申ふくさ物^(襷)まで金らむ、是ハ当帝様御運上、車縁下ニ有リ、



〔釈文〕

於今度大坂之事

一、拾二月二十一日四時御出頭、
三好孫七郎殿ノ御事

一、御奏者羽柴少將、

一、隆景御進物、

御太刀一振 金惣

御馬一疋 むとふかけ

紅糸 百斤

銀子 五百枚

一、元長御進物、

御太刀一振

御馬 一疋

銀子 五百枚

一、御座敷 隆景・元長・渡邊石見守

一、關白様・宰相殿、羽柴美濃守殿ノ事也

一、初献 引渡也、

一、三ツ點心 饅頭 羹 麦なり、

一、七五三 食事 安国寺・乃美兵部・今田中務

被罷候、

一、御相伴衆 (頼隆) 孫七郎との

一、從関白様隆景江御腰物、御脇差被遣候、元長

へハ御太刀計、

一、御座敷過、金ノ御座敷御見物、畳しやうく

ひ、柑地金綱縁、中ハ錦、裏ハもうせむ、茶

湯道具不及申ふくさ物まで金らむ、是ハ当帝

様御運上、車縁下ニ有り、

一、廿一日、霽、於隆景御宿猿樂衆被召集、御は

やし候、其後宗易被參、御茶湯指南被申候な

り、

と見え、茶室全てが金作りであったことが記されていますが、中でも興味深いのが「車縁の下にあり」とある様に、茶室自体が移動式であったことがこの史料から初めて判明する点です（ちなみに、先日、大阪城天守閣に伺った際、復元の黄金茶室を拝見しましたところ、しっかりと車輪がついておりました）。

なお全文の翻刻および、関係史料は『大日本史料 第十一編之二十四』（東京大学出版会）81ページ以下に収載されています。ご興味のお有りの方は御覧下さい。

また、収集した複本は、閲覧が可能です。詳しくは東京大学史料編纂所図書室までお問い合わせ下さい。

MEMO

東京大学史料編纂所 図書室／東京大学史料編纂所 3階

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

電話 03-5841-5962 (図書運用係)/FAX 03-5841-8425

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/tosho/tosho.html>

〈図書室利用時間〉 閱 覧 時 間：9：15～17：00

閲覧手続受付：9：15～16：45 (11：50～13：00を除く)

〈閉室日〉 土・日・祝休日 蔵書点検期間 夏季期間 月末整理日 年末年始

その他、臨時に閉室することがあります

川村 純一著

文学に見る痘瘡

11月刊

古来から、人々は痘瘡（天然痘）と戦い、多くの犠牲を払ってきた。また一方では、痘瘡神が祀られ、多くの民俗行事が発達するなど、痘瘡と馴れ親しんできたともいえる。平安朝から昭和まで、主に江戸時代を中心に46の文学作品を通じて、当時の民衆の痘瘡に対する疾病概念および医療事情を浮き彫りにする。

◆◆◆内容目次◆◆◆

- I 痘瘡とは
- II 痘瘡の起源
- III 文学作品

(平安時代) 栄花物語／中右記 (鎌倉時代) 明月記／花園院宸記
 (室町時代) 多聞院日記
 (江戸時代) 折たく柴の記／近松世話浄瑠璃／椿説弓張月／浮世風呂／
 甲子夜話／馬琴日記／徳川実紀／おらが春 など35作品
 (明治時代) 拾島状況録／我輩は猫である／遠野物語
 (大正時代) 安井夫人 (昭和時代) 洗心録／日本医業随筆集成

かわむら・じゅんいち…1926年生。眼科専門医。医学博士。30数年間にわたる「郷土医学史」特に「治療信仰」の研究で、1995年日本医師会最高優功賞受賞。2004年『千葉県伝染病史』の著作に対し千葉県医師会医学学会学術奨励賞を受賞。

▶ A5判・290頁／定価5,250円

ISBN4-7842-1323-6



為朝と鬼(痘鬼)の力競べの絵馬

病いの克服 日本痘瘡史

川村純一著

古代より人類を苦しめてきた痘瘡（天然痘）は、1796年ジェンナーの牛痘種痘法を経て、1980年WHOによりその根絶が宣言された。膨大な資料からその歴史を描き出す。
【内容】 痘瘡の呼称の変遷／痘瘡の起源と伝来／痘瘡の流行／痘瘡の犠牲者／痘瘡にかかわる民俗／痘瘡の根絶／人類は再び痘瘡に襲われることはないか など

▶ A5判・400頁／定価4,935円 ISBN4-7842-1002-4

十九世紀日本の園芸文化

平野 恵 著 江戸と東京、植木屋の周辺

近世後期から明治前期、19世紀における園芸文化史を江戸・東京を中心に叙述。旧来の園芸史では言及されなかった本草学・見世物研究分野を視野に入れ、また大田南畝らが主導した化政期以降の狂歌界との関連を指摘するなど文芸分野との統合をはかり、「園芸文化」という新しい領域を開拓する意欲作。図版70余点。

▶ A5判・550頁／定価6,825円 ISBN4-7842-1292-2

毒きのこ今昔

——中毒症例を中心に——

奥沢康正・久世幸吾・奥沢淳治 共編著
 松下裕恵 挿画

きのこを愛してやまない眼科医の著者が、永年にわたって渉猟してきた書物から毒きのこに関する記述、中毒症例をまとめ、きのこ中毒に関する情報・治療法などを紹介。イラスト230点余。

◆◆◆内容目次◆◆◆

毒きのこの前史／きのこの古名・方言から毒きのこを知る／明治期の毒きのこの情報／きのこ中毒の疫学調査から／毒きのこの見分け方の嘘／毒きのこ中毒症例集／毒きのこ各論／きのこの調理法と毒性／きのこ中毒の治療／日本・諸外国のきのこ中毒防止対策／毒きのここと互いに似ているきのこ図鑑／毒きのこ番付／きのこを薬と副食にしたかわりの歴史／毒きのこの医学的利用



おくざわ・やすまさ…1940年天保年間から続く京都の医家に生まれる。現在、日本医史学会理事、京都医学史研究会副会長。

▶ B5判・380頁／定価4,935円 ISBN4-7842-1215-9

眼科医家人名辞書

【10月刊】

奥沢康正・園田真也 共編

※地方の郷土史・地方医史をはじめ、人名辞典・人物誌などから江戸・明治の眼科を生業とした医師たち483名を収録し、プロフィールを略述。

※眼科を専業とした医師に限らず、内科・外科を専業としながらもプライマリケアを実践し、眼疾患の患者を診た人々も収録。

※主要流派（32件）については、その流派の説明を本文中に挿入、医系図・家系図も多く掲載。

※付録として、馬島流を中心とした眼医師の流派についての解説、江戸時代眼科流派一覧表を付す。

そのだ・しんや…1967年鹿児島生。現在、園田病院副院長。

▶ A5判・304頁／定価4,200円 ISBN4-7842-1327-9

京の民間医療信仰

奥沢康正著

安産から長寿まで

京都の眼科医が市内の寺社の民間医療信仰を紹介した異色の京都案内。170の寺社の御利益やその歴史的背景を、地図や写真も交えながら紹介し、現代における信仰の有様などを考察する。

▶ A5判・340頁／定価2,940円 ISBN4-7842-0642-6

太宰文学の女性像

青木京子著

太宰治は単なる自己破滅型の私小説作家ではなく、「昭和」という新時代を反映している。その女性像・素材について検討し、太宰文学の文学性を明らかにする。
あおき・きょうこ…1950年大阪府生まれ。佛敎大学大学院博士課程文学研究科国文学専攻修了・博士(文学)。佛敎大学非常勤講師。

▶A5判・336頁／定価2,940円 ISBN4-7842-1308-2

私の中の20世紀の外国映画

清田嘉宣著

著者独自の人生経験、価値観や社会観で珠玉の外国作品85点を永年の熱烈な映画ファンが熱い思いで語る。

きよた・よしのぶ…1920年大分県生まれ。広島高等師範学校卒業。中学・高校・国立専門学校で教鞭をとる。

▶A5判・230頁／定価1,995円 ISBN4-7842-1314-7

書評・紹介一覧 6～8月掲載分

※(評)…書評(紹)…紹介(記)…記事〔敬称略〕

隔莫記 全7巻 (紹)中外日報26916号	正倉院文書の国語学的研究 (紹)日本語の研究(日本語学会)第2巻3号
私の中の20世紀の外国映画 (記)大分合同新聞8/12朝刊(著者インタビュー) (記)大分合同新聞8/18朝刊	近世地域教育史の研究 (評)地方史研究322号(石山秀和)
本能寺史料 中世篇 (紹)中外日報26905号	茶の湯 連翹抄 (評)茶の湯(茶の湯同好会)389号(田中仙翁)
近世儒者の思想挑戦 (紹)京都新聞7/2朝刊読書面(「京滋の出版」欄)	日本古代商業史の研究 (紹)史学雑誌第115編8号(吉松大志)
上賀茂のもり・やしる・まつり (紹)中外日報26897号	続・鍼の道——内科医の熟年 (評)日本医史学雑誌第52巻第2号(末中哲夫)
中世京都の都市と宗教 (紹)京都新聞7/9読書面(「出版社メール」欄)	『親信卿記』の研究 (評)史学雑誌第115編7号(磐下徹)
三藐院 近衛信尹 (紹)朝日新聞6/11朝刊読書面 (紹)目の眼9月号	棟札の研究 (評)日本歴史698号(遠藤廣昭)
昭和初期——移民の手紙による生活史 (記)京都新聞6/11夕刊(著者中野進氏インタビュー) (紹)移住家族第431号(海外日系人協会)	周縁文化と身分制 (評)史学雑誌第115編7号(竹ノ内雅人)
ヴィクトリア朝英国と東アジア (評)読売ウイークリー2006.8.20-27号(通巻3037号) (小野寺健「この本にさぶらいず」欄)	中国文人画家の近代 (評)東方(東方書店)304(楊曉文)
中国近世における国家と禪宗 (評)中外日報26892号(野口善敬)	漂流記録と漂流体験 (評)日本歴史698号(春名徹)
民芸運動と地域文化——民陶産地の文化地理学 (紹)民藝8月号	中世寺領荘園と動乱期の社会 (紹)日本史研究528号(大河内勇介)
	絵葉書で辿る日本近代医学史 (評)日本歴史697号(瀧澤利行)
	牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション (紹)madame FIGARO japon 321号 読書面

6月から8月にかけて刊行した継続図書

シリーズ名	配本回数	巻数	巻タイトル	ISBN4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
御堂関白記全註釈	4	第2期第4巻	寛弘4年	1302-3 C1321	06032068	0753511	06834626	5,775	6
本能寺史料	6	6	別巻 中世篇	1305-8 C3321	06034600	0754058	06881437	15,750	6
増補・改訂 西村茂樹全集	4	4	著作4	1317-1 C3312	06046328	0757345	07086077	17,850	8

6月から8月にかけて刊行した図書

図書名	著者名	ISBN4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
上賀茂のもり・やしる・まつり 想 「封建」・「郡県」再考 太宰文学の女性像 茶道と恋の関係史 『隔莫記』全7巻 (本篇6巻・総索引1巻) 『隔莫記』総索引 朝顔明鑑鈔 私の中の20世紀の外国映画 絶対透明の探求	大山喬平監修 白井嵯千 張翔・園田英弘共編 青木京子 岩井茂樹 赤松俊秀校訂 『隔莫記』研究会編 三村森軒著・小笠原亮編 清田嘉宣 尾鍋智子	1300-7 C1024 1309-0 C1091 1310-4 C3020 1308-2 C1095 1313-9 C3024 1311-2 C3321 1312-0 C3000 1315-5 C3024 1314-7 C1074 1294-9 C3013	06034615 06033351 06035851 06038948 06040155 0755666 06041350 06041309 06041304 06043730	0753780 0753946 0754462 0755022 0755387 0755666 0755667 0755650 0755649 0756644	06881445 06851620 06897524 06944730 06960801 03030061 03106390 06989792 06989891 07043078	2,940 2,100 6,825 2,940 3,990 73,500 14,700 4,200 1,995 6,090	6 6 6 7 7 7 7 7 7 8

(表示価格は税5%込)

▶ていたいむ余録◀ 谷先生は毎日ご家族にお茶を点でられているとのこと。今回のお話で「継続は力なり」という言葉とおだやかなお人柄が身にしました。(た)

▶表紙図版◀ 日藏上人、鉄窟地獄の延喜帝を訪れる(『北野天神縁起』巻第5/守口市佐太天神宮所蔵/写真提供:守口市教育委員会)(『権者の化現』より)